

私と国有林

「八溝山に対する思い」

八溝山天然林保存会 副会長 鈴木 脩平

福島県矢祭町北西部に位置する八溝山天然林は、貴重なブナやミズナラ等が群生し、現在でも地元と森林管理署の努力により原生林的要素を保っている美しい森林です。春にはシロヤシオの大木が多くの白い花を咲かせ、秋にはカエデやブナ等が紅葉し皆が感嘆の声を漏らします。八溝山天然林はこのように四季折々の表情を見せてくれる、昔から地元の人々と深いつながりのある森林です。



ブナの大木を見上げて

「八溝山天然林保存会」はこの貴重な森林を守り、後世に残していきたいという想いのもと、昭和27年に結成されました。その当時、木材は伐採して使うものという認識が強く

「守るべきもの」という観点は希薄であったと思います。そんな中、最初にこの天然林を守ろうと活動を始めたのが、当時の石井村の吉成昌五郎氏と高城村長の吉成良介氏の二人でした。活動開始直後から、伐採や炭焼きなどで生活していた人々から反対の声があがり、保存活動は困難を極めたといえます。しかしながら、二人は諦めることなく、自然保護の大切さや、貴重な森林を後世に残していくことの重要性を訴え続け、永年をかけて皆の同意を取り付け、保存区設定が許可された、先人達の想いの集大成でもあるのです。保存会結成当時は、地元のほぼ全



咲き誇るシロヤシオ

戸が保存会に加入しており、皆が誘い合って総会に出席していました。しかし、今では会員数も減少し、なにより当時を知る人が少なくなりました。このような状況をみるにつけ、このままでは先人達の想いが失われていくのではないか、という思いもよぎります。

私達は八溝山天然林が守られてきた歴史や想いを直接知る最後の世代なのかもしれません。この貴重な自然を残してくれた先人達の努力や想いを次の世代に引き継いでいきたいと考えた時、ただ一つだけ確実に言えることは、これから地元住民が誘い合ってこの素晴らしい自然とふれ合っていくべきだということです。



総会での一コマ

私達より若い世代は、これまでの歴史や先人達の想いについて、今は分からないかもしれません。しかし、この天然林とふれ合い続けていくことで、10年後、20年後きつとこの自然の素晴らしさを、歴史を、想いを分かってくれるのではないか、そのように思えてなりません。

今年は八溝山天然林保存会結成60年の節目に当たります。これを機に私としても、この素晴らしい自然を後世に伝えていくための活動をより活性化していきたいと思っています。そしてこれから先の遠い未来においても、八溝山天然林が今と変わらぬ自然そのものの姿であり続けてくれることを願います。



天然の木のトンネルをくぐって